

1年生

8月に行われた全統模試は、希望者の受験にもかかわらず、250人以上の生徒が受験し、進学に対する意識の高さを感じ取れます。1年生のうちは、「授業の予習、復習をしっかりとる」、「定期考査、課題テスト、模試をしっかりと受験する」習慣を確立すべきです。

中だるみは2年生ではなく「1年生3学期」から始まるという説があります。3学期にも模試がありますので、しっかりと受験してほしいと思います。国数英を中心に教科バランスのよい学習が望ましいですが、9月に調査した生活実態調査の結果では、教科ごとの力の入れ具合に大きな差が見られます。先月受験した模試の結果等を参考にして、先を見通したバランスの良い学習計画を立ててほしいと思います。

2年生

2年生3学期は「3年生0学期」です。今年は修学旅行が12月に延期となったこともあり、修学旅行が終わるのを機に「受験生」への切り替えがしやすいと思います。3学期には2回（希望者は3回）の模試があります。力を図る絶好の機会なので、しっかりと受験してほしいです。

また、コロナ禍で学年集会など一堂に会する行事が減り、自分で正確な情報を調べる「情報収集力」が重要視されます。自分の目指す方向性を明確にし、必要な情報がないか常にアンテナを伸ばしてほしいです。

難関大学合格の秘訣として「2年生の3学期から3年の1学期にかけての模試成績の伸びが大きい」、「2年生までにできる限り国数英が完成している」というデータがあります。以下に、難関国公立大学合格者と不合格者の特徴についてまとめた表を掲載しました。参考にしてください。

○参考資料『難関国公立大学合格者、不合格者の特徴』

合 格	不 合 格
早い時期（2年生1学期）で第一志望を決められた生徒の方が安定感がある。	2年生冬の段階で志望を下げる。
不安になりながらも、それを表に出さずにぐっとこらえ、学習に向かえる生徒は強い。	高い志望を掲げたが、途中で弱気になったり揺らいだりする生徒は、志望を下げた大学にも届かないことがある。
3年生0学期に国数英ができていないと志望を下げない。学力と志望は関係している。志望を下げないためにも国数英の完成が望まれる。	国数英が2年生の終わりにできていないと3年生になって不安になって志望を下げる。

パネッコーポレーション『中部・東海地区難関国公立大学 合格者育成指導研究会』資料により作成。

○保護者向けの進路講演会（web）のご案内

先日お子さまを通じて配付したパスワードを入力して視聴できます。ぜひともご覧いただきたいです。

3年生

本当に大変な学年ではありますが、例年以上にがんばっているように見受けられます。そのような状況の中、泰然自若とした態度で学習に取り組む姿をみて、心から応援したくなります。授業後の学習室にも多くの生徒が残って学習し、また、職員室に積極的に質問に来る前向きな姿勢の生徒も目立ちます。そうした先輩の姿が後輩たちにも好影響を与え、伝統は受け継がれていくものだと感じます。

全国的には「安全志向のさらなる高まり」や「浪人生の少なさ」など本校生徒にも有利に働く状況が予想されます。また、各種模試の成績においても過年度比較や他校比較をみても、十分に戦える力を付けている生徒が多いです。第一志望を粘り強く貫いてほしいです。

保護者会に向けて2学期期末考査期間中に3年生の学年団を中心に進路検討会を行います。時間をかけて1人ひとりの生徒について検討していきます。一人でも多くの生徒、できれば全員の進路希望の実現ができるように検討します。

最近では校内で不安になっている生徒も見かけます。学校と保護者の方々と一体となってお子さまを支えていければ、と強く感じています。御家庭でのサポートをよろしくお願いいたします。

○参考資料「大学入試と保護者の心構え」

4つのサポート	内 容
1. 生活面・経済面のサポート	バランスの取れた食事。生活リズムの確立。
2. 出願のサポート	無理のないスケジュール。経済的負担。「締切」の確認。
3. 精神面のサポート	学習に専念できる環境づくり。「見守る」という姿勢。
4. 最後まで…	入試当日まで大きく成績は伸びる。最後まであきらめない。

駿台予備学校『保護者対象講演会』資料により作成。

参考資料

河合塾、駿台予備学校、ベネッセコーポレーション各種進学指導資料

文責 進路指導主事 岩崎 達哉